

## 4. Inventories

### A. 棚卸資産 (Inventory) の基本概念 (ASC 330)

**ポイント** 棚卸資産の会計処理は、概念的に難解な部分はありませんので、基本をよく理解して問題のトレーニングを重ねてください。

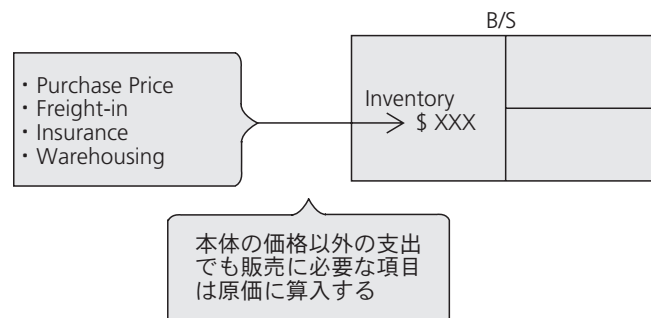
#### 1. 棚卸資産とは

棚卸資産とは販売を目的として保有されている有形 (tangible) 資産であり、製造業の場合には完成品 (finished goods) に加え、期末において生産の途中である仕掛品 (work-in-process)、原材料 (raw materials)、補助材料等の貯蔵品 (supplies) も含まれる。また、同じ物品 (goods) でも事業単位の内部で使用される目的で保有または使用される場合は、有形固定資産 (property, plant, and equipment) または費用として扱われる。

#### 2. 棚卸資産の原価の構成要素

a) 棚卸資産を販売するために合理的 (reasonable) で必要不可欠 (necessary) な支出 (expenditure) は、費用として扱うのではなく、棚卸資産の原価に算入する (cost inclusion)。具体的に算入される代表的な項目には本体の価格 (purchase price) に加え、以下のものがあげられる。

- 1) 仕入運賃、引取運賃 (freight-in)
- 2) 保険 (insurance)
- 3) 保管のための倉庫費用 (warehousing)



b) 製造業における製品 (manufacturing product) の場合、製造の過程で発生した支出は棚卸資産の原価を構成する。以下の費用は、仕掛品 (work-in-process)、及び完成品 (finished goods) に配賦される。

- 1) 直接材料費 (direct material costs; DM)
- 2) 直接労務費 (direct labor costs; DL)
- 3) 製造間接費 (factory overhead)

#### F-022①

棚卸資産の基本概念  
(Basic Concept of Inventory)  
原価算入する項目

棚卸資産を販売した際に売手が負担した支払運送料 (freight-out) は販売費 (selling expense) である。

### 3. 商品引渡しの条件

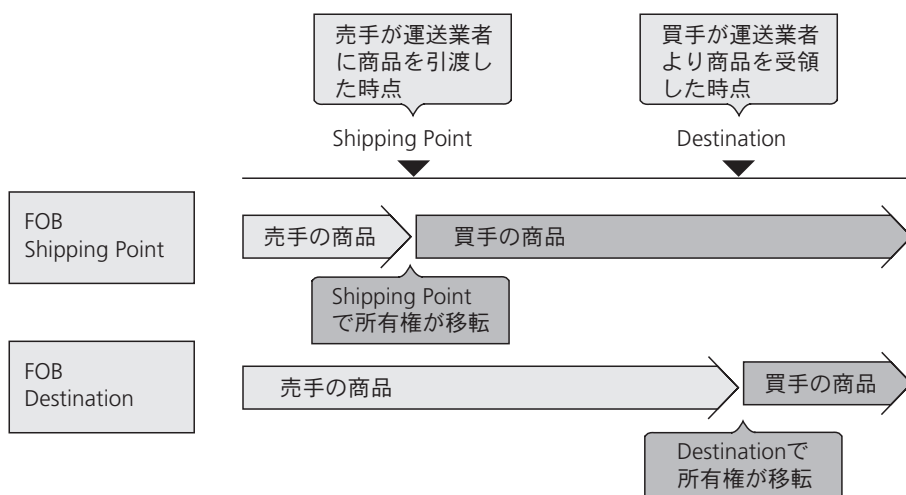
商品の引渡し時点の認識は、対面販売であれば容易に確定できるが、売手と買手が物理的に離れており、運送業者（common carrier）を使って商品の発送を行った場合、売手が出荷した時点で引渡しを行ったと認識するのか、買手が商品を受領した時点で引渡しを行ったと認識するのが問題となる。

#### a) FOB (free on board) shipping point

売手が運送業者（common carrier）へ商品を引渡した時点で商品の所有権が移転したと考え、売手は売上を計上し、買手は棚卸資産の購入の会計処理を行う。従って運送期間中（in transit）に会計期末が到来した場合は、買手の貸借対照表上に棚卸資産が計上される。また、運賃は通常、運送中の所有権を有する買手が負担する。

#### b) FOB (free on board) destination

買手が商品を受領した時点で商品の所有権が移転したと考え、売手は売上を計上し、買手は棚卸資産の購入の会計処理を行う。従って運送期間中（in transit）に会計期末が到来した場合は、売手の貸借対照表上に棚卸資産が計上される。また、運賃は通常、運送中の所有権を有する売手が負担する。



#### F-022②

棚卸資産の基本概念  
(Basic Concept of Inventory)  
FOB shipping pointとFOB destinationとは何か

商品引き渡しの条件にはFOB destination, FOB shipping pointのほかに、CIF (Cost, Insurance, Freight)、C&F (Cost, Freight) などがある。CIFは販売価格に運賃、保険料を含んで契約される。C&Fは販売価格に運賃が含まれる契約である。どちらも、FOB shipping pointと同様、売手が運送業者に商品を引き渡した時点で商品の所有権が移転する。